

第35回福島県輸血懇話会抄録

日時：2022年10月1日（土） 午後2時から

会場：会津大学講堂

<一般演題>

1. 当院における院内輸血療法監査の現状と今後の課題

福島県立医科大学会津医療センター附属病院

¹⁾臨床検査部, ²⁾看護部, ³⁾血液内科, ⁴⁾輸血療法委員会

渡部 和也¹⁾⁴⁾, 鈴木 沙織¹⁾⁴⁾, 小原 真理¹⁾
鈴木 桂子²⁾⁴⁾, 高橋 光子²⁾⁴⁾, 渡部 千恵²⁾⁴⁾
大野 恭子²⁾⁴⁾, 鈴木多恵子²⁾⁴⁾, 小林美奈子²⁾⁴⁾
佐藤 瑞恵²⁾⁴⁾, 尾崎 順子²⁾⁴⁾, 小林 諒太²⁾⁴⁾
村澤 宏一²⁾⁴⁾, 吉田由美子²⁾⁴⁾, 角田 三郎³⁾⁴⁾
大田 雅嗣³⁾⁴⁾

【はじめに】当院では病院機能評価受審を契機に、輸血マニュアルの周知と輸血療法が安全で適正に行われているか確認する事を目的として2019年2月より院内監査を実施している。その経緯と方法、今後の課題について検討したので報告する。

【方法】当院輸血療法委員会にて数年前から輸血監査を行うべきと議論され、監査人員と訪問時間、方法について具体化されずにいた。病院機能評価を受審するにあたり、院内の認定輸血連絡協議会と共に輸血マニュアルを改訂し、その周知を確認する方法として監査を行う機運が高まった。日本輸血・細胞治療学会 I&A チェックリストを参考に院内監査シートを作成、隔月で病棟の監査を開始した。監査日程は認定輸血連絡協議会のメンバーに事前にメールで連絡し合い決定し、輸血認定医1名、認定輸血検査技師1名、学会認定・臨床輸血看護師2名にて実施した。

【結果】監査を受ける部署から2名看護師を選出してもらい、部署の輸血療法委員と一緒に、監査シートの項目に沿って進めた。監査委員が口頭質問をし、一つ一つ看護師が確認しながら回答していく方法で、円滑に監査を進めることができた。これによりマニュアルの配架場所確認、輸血セットの使い方、輸血製剤の取り扱い方、院内既定の輸血手順などの確認をすることができた。監査結果は、直近の輸血療法委員会にて報告し、監査部署へフィードバックした。さらにオリジナルの輸血療法監査修了証を発

行し、院内監査の意識付けをすることができた。

【考察】監査終了部署数は現在9部署であり、ほぼ2回監査を実施し終えている。当院監査は看護師への口頭回答で行っているが、実際に輸血をする場面の監査は行えていない。輸血する現場への監査員のスケジュール調整や、実施監査する輸血患者の同意を得なければならないことなど、体制が整えられず実施には踏み切れていない。また、昨今の新型コロナ流行下ではナースステーションに数人監査員が詰めかけてしまうため、なかなか進めていくことができていない。さらに、手術室や内視鏡検査室の監査においては、処置中の患者がいることが多いため、対応看護師の調整と訪問時間とどう監査を進めていくか、今後の課題である。しかしながら、多職種で輸血療法監査を行うことは、チーム医療による活動の一環として、院内輸血マニュアルの標準化、遵守方法の再確認、問題点の発見など、現場での課題を目の当たりにできるため、その意義は大きいと考える。

【まとめ】院内輸血療法監査は、輸血療法の現状把握と輸血マニュアルの周知徹底に有効である。今後は、実施体制も含めた監査方法の問題点の改善を行い、輸血療法監査を継続し、安全で適正な輸血療法の推進に繋げていきたい。

2. 当院における看護部輸血療法研修会の取り組み

一般財団法人 竹田健康財団 竹田総合病院看護部

石本 由美

【はじめに】当院では、年1回、輸血の基本的な知識と技術の確認と看護部輸血療法マニュアルに沿った技術向上を図ることを目的に、看護部輸血療法研修会を開催している。2019年から2021年の3年間の研修会の取り組みと研修後のアンケート結果から、研修の効果について報告する。

【看護部輸血療法研修会の概要】

対象：クリニカルラダー レベルⅡ・Ⅲ 学習中の看護師

内容：認定輸血検査技師による講義「輸血の種類と適応」

学会認定 臨床輸血看護師による講義「輸血の実施と記録」

ナーシングスキル視聴、輸血の実施と記録に関する動画鑑賞